

2025年度

柔道整復科1年

シラバス

卒業時の到達目標

柔道整復師の業務と活躍の場を正しく理解し、進むべき道を自ら決定し各現場に
適応するとともに、他の医療従事者との連携を重視し、地域社会に誠意を持って
貢献することができる。



3年次の概要

前期は、患者の診察から施術、治癒に至るまでの施術プランの作成及び指導管理までの一連の流れを座学授業の中でシミュレーションし、必要となる技術を実技授業で修得する。附属施術所実習においては前述の流れを患者さまに実践することにより、卒後の現場に自信を持って羽ばたくための集大成となる授業を展開する。後期は、国家試験の対策に重点を置き、これまでに学んだ知識の整理を行い確実な合格につなげる。



2年次の概要

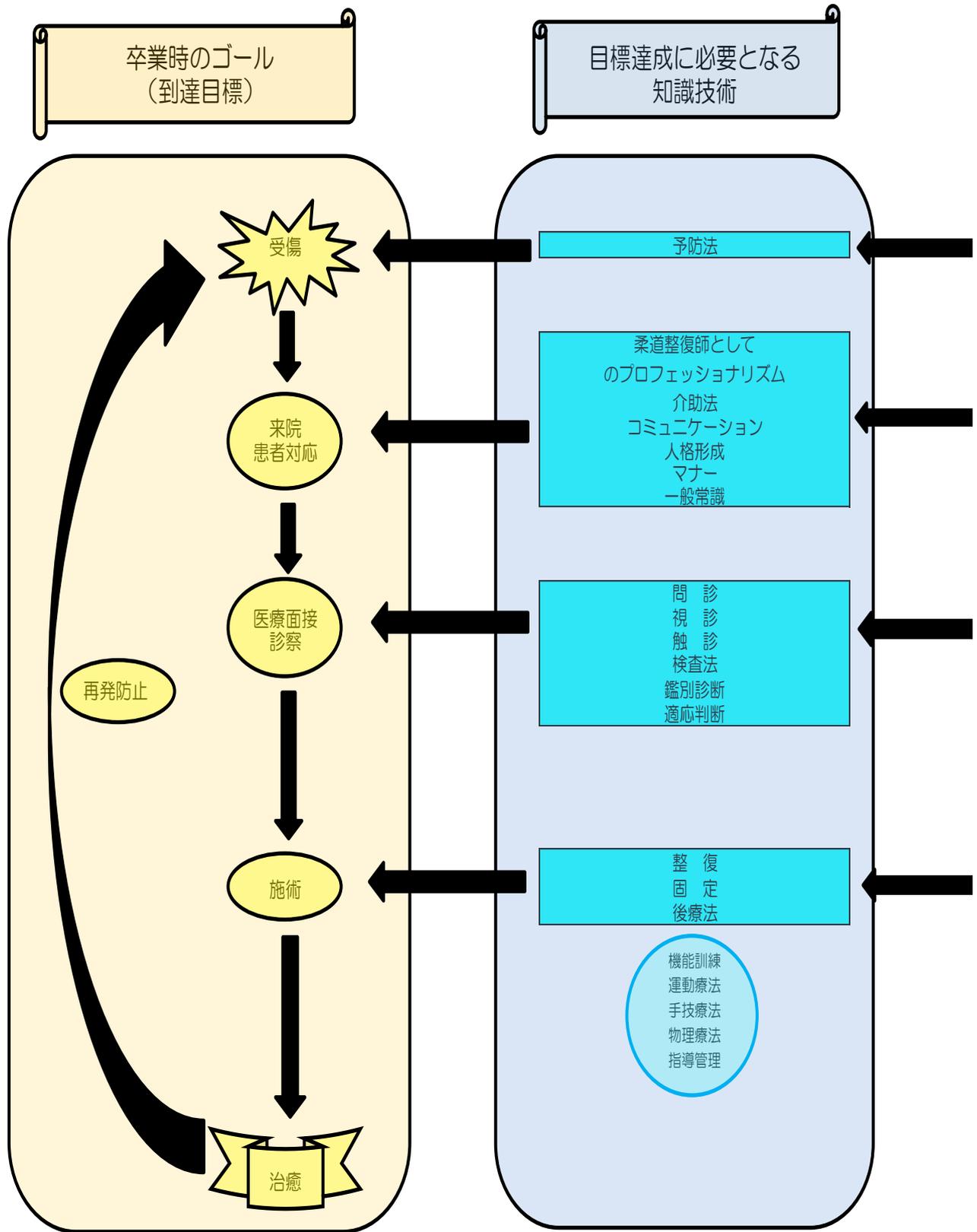
1年次に修得した基礎知識を基に実践的な知識技術を学ぶ。座学授業においては身体各部のケガの概要を理解するとともに、整形外科や内科学をはじめとする医学の知識を合わせて修得し、柔道整復の施術適応の判断能力を獲得する。実技授業では実践的な徒手検査法の技術、外傷予防のためのトレーニング及びストレッチの手法を学び、この技術を臨床実習で患者さまに実践していく。また附属施術所実習においては、患者さまへの問診から診察までの流れを実践するとともに、保険の取り扱いについても学ぶ。



1年次の概要

基礎となる医学用語を理解するとともに、柔道整復師としての職業意識の向上に重点を置く。職業への倫理観、社会人としてのマナー、一般常識、立ち居振る舞いを授業及び臨床実習を通じ身に付ける。また身体の構造機能の基礎、怪我の基礎についての理解を深め、実技授業では診察の基本的手法及び固定法の技術を身に付け柔道整復師への第一歩を踏み出す。

卒業時の目標とカリキュラム構成イメージ



知識技術修得のための設定科目

・外傷予防法 (実技)

・高齢者競技者の
・生理学的特徴と変化 I・II
・人体機能回復論

・柔整人体構造機能学基礎
・運動器の機能構造 I
・運動器の機能構造 II
・解剖学
・生理学

・職業倫理
・関係法規
・総合基礎 I・II
・健康の意義
・柔道 (実技)
・疾病と障害
・社会保障制度

・基本診察治療法 (実技)
・柔道整復術の適応と鑑別
・外科診断治療学 I・II
・内科診断治療 I・II

・柔整外傷論基礎
・柔整外傷保存療法
・柔整後療治療論
・柔整応用治療論
・体幹の損傷・治療論
・上肢の損傷・治療論
・下肢の損傷・治療論
・軟部組織損傷・治療論
・総合柔道整復論
・柔整関連医学

・固定法 I (実技)
・固定法 II (実技)
・応用診察治療法 (実技)
・柔整応用治療法 I (実技)
・柔整応用治療法 II (実技)
・柔整後療法 (実技)

臨床実習

単位充当表

	教育内容	授業科目	授業形態	単位数	1学年		2学年		3学年		計		
					単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活	総合基礎Ⅰ	講義	14	10	150					10	150	
		総合基礎Ⅱ	講義				4	60			4	60	
	小計				14	10	150	4	60		14	210	
専門基礎分野	人体の構造と機能	運動器の機能構造Ⅰ	講義	22	8	144					8	144	
		運動器の機能構造Ⅱ	講義						2	36	2	36	
		人体構造学	講義					4	72			4	72
		人体機能学	講義					4	72			4	72
		高齢者・競技者の生理学的特徴と変化Ⅰ	講義			2	36					2	36
		高齢者・競技者の生理学的特徴と変化Ⅱ	講義					2	36			2	36
	疾病と傷害	疾病の成り立ち	講義	14				2	36			2	36
		人体機能回復論	講義					4	72			4	72
		内科診断治療学Ⅰ	講義					2	36			2	36
		内科診断治療学Ⅱ	講義							2	36	2	36
		外科診断治療学Ⅰ	講義				2	36				2	36
		外科診断治療学Ⅱ	講義							2	36	2	36
	柔道整復術の適応	柔道整復術の適応と鑑別Ⅰ	講義	4				2	36			2	36
		柔道整復術の適応と鑑別Ⅱ	講義							2	36	2	36
	保健医療福祉と柔道整復の理念	柔道整復師の業務と職業倫理	講義	8	2	36					2	36	
		健康の意義	講義		2	36					2	36	
		柔道Ⅰ	実習		2	72					2	72	
		柔道Ⅱ	実習							2	72	2	72
	社会保障制度	柔整社会学	講義	2					2	36	2	36	
	小計				50	16	324	22	396	12	252	50	972
	専門分野	基礎柔道整復学	柔整外傷論基礎	講義	12	6	108					6	108
			柔整外傷保存療法	講義		2	36					2	36
柔整人体構造機能学基礎			講義	4		72					4	72	
臨床柔道整復学		柔整後療治療論	講義	35	2	36					2	36	
		上肢の損傷・治療論	講義					4	72			4	72
		下肢の損傷・治療論	講義					4	72			4	72
		軟部組織損傷・治療論	講義					2	36			2	36
		体幹の損傷・治療論	講義							2	36	2	36
		柔整応用治療論	講義							4	72	4	72
		総合柔道整復論	講義							5	90	5	90
		柔整関連医学Ⅰ	講義							6	108	6	108
		柔整関連医学Ⅱ	講義							6	108	6	108
		柔道整復実技	固定法Ⅰ		実習	17	2	72					2
固定法Ⅱ			実習	2	72						2	72	
基本診察治療法			実習	2	72						2	72	
応用診察治療法			実習					4	144			4	144
外傷予防法			実習					2	72			2	72
柔整後療法			実習							1	36	1	36
柔整応用治療法Ⅰ			実習							2	72	2	72
柔整応用治療法Ⅱ			実習							2	72	2	72
臨床実習		臨床実習Ⅰ	実習	4	1	45					1	45	
		臨床実習Ⅱ	実習					1	45			1	45
		臨床実習Ⅲ	実習					1	45			1	45
		臨床実習Ⅳ	実習							1	45	1	45
小計				68	21	513	18	486	29	639	68	1638	
合計		合計			132	47	987	44	942	41	891	132	2820

学年	科目名	単位数	時間数	教員名
1年	運動器の機能構造Ⅰ	8	144	合田香奈
	柔道整復師の業務と職業倫理	2	36	千田由美子
	柔整外傷論基礎	6	108	安原省吾
	柔整外傷保存療法	2	36	安原省吾
	柔整人体構造機能学基礎	4	72	横井大遥
	柔整後療治療論	2	36	東佑樹
	固定法Ⅰ	2	72	大河原崇雄
	固定法Ⅱ	2	72	本田泰之/千田由美子
	基本診察治療法	2	72	安原省吾
2年	上肢の損傷・治療論	4	72	松田卓也
	下肢の損傷・治療論	4	72	田中秀和
	軟部組織損傷・治療論	2	36	東佑樹
	応用診察治療法	4	144	工藤大介/横井大遥
	外傷予防法	2	72	東佑樹/本田泰之
3年	運動器の機能構造Ⅱ	2	36	川口央修
	柔整社会学	2	36	高橋良仁
	体幹の損傷・治療論	2	36	合田香奈
	柔整応用治療論	4	72	松田卓也/田中秀和
	総合柔道整復論	5	90	田中秀和/松田卓也/高橋良仁
	柔整関連医学Ⅰ	6	108	工藤大介
	柔整関連医学Ⅱ	6	108	川口央修/合田香奈/横井大遥
	柔整後療法	1	36	木ノ内秀功
	柔整応用治療法Ⅰ	2	72	千田由美子
柔整応用治療法Ⅱ	2	72	高橋良仁	
合計		78	1710	

2025年度 柔道整復科

【分野】 基礎分野 科学的思考の基礎・人間と生活

【科目】 総合基礎Ⅰ

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	月野和 美砂（つきのわ みさ）	
単位数	1 単位	実務経験		
科目必選区分	必修	時間数	16	
開講学期	前期	授業形態・回数	VOD	8 回

【授業情報】

授業概要	<p>人が心身ともに健康に生きる上では食生活は大切です。1日3度の食事により十分な栄養が毎回補給されなければ体は疲れ、やる気もなくなってきました。そこで身体に最も必要な基本の5大栄養素を一つずつ取り上げます。</p> <p>栄養が入った“食品”群や栄養の入った食品から作った“料理”で日々の栄養バランスをとる方法や基礎代謝や身体活動量などのエネルギー収支について、また各種栄養素の過不足から来る体のさまざまな不快な症状とその予防や改善のための食物、食べ方についてとりあげます。</p>
授業の一般目標 (G10)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5大栄養素についてその役割やどのような食材に多いかがわかる。 ・ 各栄養素の過不足がもたらす体の不調を理解する。 ・ BMIを計算し、適正体重を計算することができる。 ・ 栄養素の過不足による体調不良を予防・改善するための食生活上のポイントを理解する。

【担当教員から】

教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価基準	<p>○授業の理解度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的知識の修得 ・ 知識の習熟度と修得した知識の応用
成績評価方法	VODごとの課題（またはレポート）の評価をもって成績とする。
履修の条件 留意点	最終成績の点が60点以上を以て履修とする。ただし、授業の60%以上の出席が無い場合は当該科目についての評価を受けることが出来ない。授業の出欠には充分注意すること。
★担当者からの メッセージ	<p>鍼灸師や柔整師自らが健康でいることは大変重要です。そのためには睡眠と共に何をいつ、どう食べるかも大切。授業では健康な食生活を送るために必要な食事について5大栄養素で説明を進めます。授業を通じて生活に取り入れられることは実践してみてください。この授業で得たことを将来、現場でどう使えるかな？とイメージしながら受けてくださいね。（身近な体験談《食事のこと、鍼灸や柔整の》も織り交ぜながらお話しできるかと思います）</p>
オフィスアワー	配信後の火曜日の17時まで

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期	1	5大栄養素概要「炭水化物」①	炭水化物の種類と役割が説明できる	VOD
	2	5大栄養素「炭水化物」②	炭水化物を多く含む食品が説明できる	VOD
	3	5大栄養素「脂質」	脂質の栄養的特徴が説明できる 脂質を多く含む食品が説明できる	VOD
	4	5大栄養素「たんぱく質」①	たんぱく質の種類と役割について説明できる。	VOD
	5	5大栄養素「たんぱく質」②	たんぱく質を多く含む食品が説明できる。	VOD
	6	5大栄養素「無機質」	無機質の種類と役割について説明できる。日本人に特に不足している無機質について説明できる。	VOD
	7	5大栄養素「ビタミン」①	ビタミンの大まかな種類と特徴について説明できる。	VOD
	8	5大栄養素「ビタミン」②食事摂取基準、エネルギーの指標、各種食品群	ビタミンを多く含む食品が説明できる。 食事摂取基準や食品群について簡単に説明できる。	VOD

2025年度 柔道整復科

【分野】 基礎分野 科学的思考の基礎・人間と生活

【科目】 総合基礎 I

【基本情報】					
配当年次	1学年		担当教員	佐藤 由紀夫	
単位数	2単位			さとう ゆきお	
必修・選択	必修		時間数	30	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	VOD	15回

【授業情報】	
授業概要	細胞から始まり生物を構成する物質、代謝、遺伝子など生物の基礎を学ぶ。高校生物基礎の学習内容を基本としつつ医療への道へ進む学生の進路に役立つ基礎教養を重点的に学べるような内容とする。
授業の方法	オンデマンド形式で授業を行います。
授業の一般目標 (GIO)	生物全般の基本を学ぶが特に細胞、DNAと遺伝子、免疫を中心に学ぶ。

【担当教員から】	
教科書	授業中に配布する資料を使うため、教科書は設定しない
参考書	高校教科書の「生物」あるいは参考書
成績評価基準	毎授業の課題(小テスト・レポート等):シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。
成績評価方法	成績評価の基準(評価割合%) 課題(小テスト・レポート等)提出——100% ※毎授業の課題における総合成績で評価する。 課題の評価を合計して60%以上で履修とする。 この科目は基礎分野・科学的思考の基盤人間と生活・生物の単位として認定されます。なお、本科目の単位履修には授業の70%以上の出席が必要です。提出期限内の課題の提出を持って出席とみなし、提出期限を過ぎた場合には欠席となります。提出期限内での提出をしっかりと行い、授業の出欠には充分注意してください。
担当教員から一言	★授業時間外に必要な学習内容 講義内容は復習し、興味を持ったことは積極的に調べてください。オンデマンドは2倍速で聞くと重要事項を聞き漏らすことがあります(注意)。毎講義後、簡単な確認試験を行います。
自主学習	予習: 必要なし 復習: 必須
オフィスアワー	配信後の火曜日の17時まで

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標(SBOs)	授業形態
前期	1	生命の共通性としての細胞	細胞についての基本について説明できる。	VOD
	2	細胞・組織・物質	細胞, 組織, そしてそれを構成する物質について理解し説明できる。	VOD
	3	酵素・代謝・ATP	酵素の性質や光合成・呼吸を説明できる。	VOD
	4	遺伝子とDNA	遺伝子DNAについてその構造、複製方法、について理解し説明できる。	VOD
	5	遺伝子の複製と体細胞分裂	DNAの複製と細胞分裂について理解し説明できる。	VOD
	6	遺伝情報の発現	DNAの遺伝情報をもとにタンパクが合成される過程を説明できる。	VOD
	7	バイオテクノロジー1	遺伝子組換え電気泳動などバイオテクノロジーの基本を理解し説明できる。	VOD
	8	バイオテクノロジー2	組換え作物の作り方や医薬品への応用などを理解し説明できる。	VOD
	9	バイオテクノロジー3	PCR法, ゲノム編集などがどのように利用されているかを理解し説明できる。	VOD
	10	体液・血球・血液凝固	体液の基本と血液凝固について理解し説明できる。	VOD
	11	血液循環と酸素の運搬	血液の循環と酸素の運搬について理解し説明できる。	VOD
	12	自然免疫	免疫に関係する血球について基礎を理解し, 自然免疫について説明できる。	VOD
	13	獲得免疫	細胞性免疫, 体液性免疫の仕組みについて理解し説明できる。	VOD
	14	免疫と社会生活	感染症やワクチン, 抗原検査, PCRなどについて理解し説明できる。	VOD
	15	生物学と社会	社会生活において生物学がどのように役立っているかを理解し考えることができる。	VOD

2025年度 柔道整復科

【分野】 基礎分野 科学的思考の基礎・人間と生活

【科目】 総合基礎Ⅰ

【基本情報】

配当年次	1学年	担当教員	岡崎 弘幸		
単位数	2単位		おかざき ひろゆき		
必修・選択	必修	時間数	30		
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	VOD	15

【授業情報】

授業概要	将来、医療道へ進むにあたり、ヒトの体を生物学的視点から見るときの基礎を学ぶ(動物学一般の内容も含む)。その中で、特にヒトの体を構成する細胞、骨格と筋肉収縮、神経系と行動、恒常性の維持(血液や内分泌系)、生体防御、人間生活を取り巻く環境などを中心に学習する。
関連科目	1年次 :「人体機能構造」「運動器Ⅰ」 2年次 :「人体構造学」「人体機能学」
授業の方法	オンデマンド形式で授業を行います。
授業の一般目標 (GIO)	ヒトの体の構造やヒトの体のさまざまな生命現象に興味や関心を持ち、常に疑問を抱きながらその解決に向けて探究心を高める。また基本的な概念や原理・法則などを系統的に理解し、他の授業とも関連させることができる。具体的には現代生物学の基礎となる細胞や代謝、健康にかかわる恒常性の維持、ヒトと環境の関係にかかわる生態系などの内容を理解し説明できる。

【担当教員から】

教科書	オンデマンドで配布する資料等(教科書は設定しない)
参考書	「解剖生理」(医療薬出版)、「高校生物基礎」・「生物」の教科書や生物図説
成績評価基準	成績評価基準 毎授業の課題の評価提出を持って、最終成績とする。
成績評価方法	<p>学業成績は、毎授業の課題における総合成績で評価する。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A: 100～90点 (2) B: 89～70点 (3) C: 69～60点 (4) D: 60点未満 成績評価の基準と算定方法</p> <p>【その他】</p>
担当教員から一言	講義内容は復習し、興味を持ったことは積極的に調べてください。オンデマンドは2倍速で聞くと重要事項を聞き漏らすことがあります(注意)。毎講義後、簡単な確認試験を行います。
自主学習	予習: 必要なし 復習: 必須
オフィスアワー	配信後の火曜日の17時まで

【授業計画】				
学期	回数	授業内容	到達目標(SBOs)	授業形態
前期	1	生命とは何か？－車は生物ではないのか－	生命の特徴について理解し、生物の共通性と多様性、ヒトの特徴が説明できる。	VOD
	2	からだは細胞からできている－細胞のつくりとはたらき－	生物の体が細胞からできていることを理解し、細胞の構造と機能が説明できる。	VOD
	3	からだを動かす仕組み－骨と筋肉の基礎－	からだを動かす仕組みとしての骨格系と筋肉を理解し、筋肉収縮のしくみが説明できる。	VOD
	4	情報の入力装置としての感覚器－視覚器と聴覚器－	光や音などの刺激を受容する眼や耳の構造と機能を理解し、見える仕組み、聞こえる仕組みを説明できる。	VOD
	5	情報伝達のしくみ－神経のつくりとはたらき－	情報を伝達する神経細胞を理解し、興奮の伝導と伝達を説明できる。	VOD
	6	中枢神経系－脳と脊髄のはたらき－	中枢神経系の脳と脊髄について理解し、働きを説明できる。また反射についても説明できる。	VOD
	7	動物の行動－ヒトの行動を生物学的観点から見る－	ヒト(哺乳類)のさまざまな行動を生得的行動と習得的行動から理解し、説明できる。	VOD
	8	細胞は化学工場－細胞の中で行われる反応－	酵素、ATP、細胞膜と浸透圧、細胞呼吸の仕組みを理解し、簡単に説明できる。	VOD
	9	消化と吸収－胃腸と肝臓のはたらき－	哺乳類の消化管やヒトの消化管について理解し、消化管のはたらきを説明できる。	VOD
	10	腎臓のつくりとはたらき	浸透圧調節について理解し、腎臓の構造と機能、人工透析などを説明できる。	VOD
	11	ヒトの呼吸器系・循環器系	肺や心臓の構造と働き、酸素解離曲線、二酸化炭素の運搬等について理解し、説明できる。	VOD
	12	血糖量を一定に保つ仕組み－ホルモンと自律神経の協働－	自律神経系とホルモン(内分泌系)の協働作用を理解し、血糖量の調節を説明できる。	VOD
	13	生体防御システム－血液凝固と免疫機構－	生体防御システムとして血液凝固や免疫機構を理解し、その仕組みを説明できる。	VOD
	14	ヒトの生殖細胞の形成と発生	生殖細胞の形成や受精卵から命が誕生する過程を理解し、生殖細胞の形成について説明できる。	VOD
	15	ヒトと環境－生態系の中のヒト－	生物と環境の関係や環境問題を理解し、生態系や物質循環、環境問題を説明できる。	VOD

2025年度 柔道整復科

【分野】 基礎分野 科学的思考の基礎・人間と生活

【科目】 総合基礎Ⅰ

【基本情報】

配当年次	1学年	担当教員	吉崎 正恒		
単位数	1単位		よしざき まさつね		
必修・選択	必修	時間数	16		
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	VOD	8

【授業情報】

授業概要	漢字の学習、作文の書き方、文章読解の方法などを総合的に学習する。教材はすべてプリントを配付し、それをもって講義を行う。
授業方法	オンデマンド形式で授業を行います。
授業の一般目標 (GIO)	これから、さまざまな講義を受けるための読解能力、将来、仕事に就いたときの一般教養など、さまざまな観点から日本語について学ぶ。

【担当教員から】

教科書	なし
参考書	『パスポート』(桐原書店) 『常用漢字アルファ』(桐原書店)ただし、購入の必要なし。すべてプリントを配付する
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の修得 知識の習熟度と修得した知識の応用
成績評価方法	学業成績の評価は、漢字の理解、作文の理解などを中心に試験の成績、履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A: 100～90点 (2) B: 89～70点 (3) C: 69～60点 (4) D: 60点未満
担当教員から一言	将来必要な日本語の知識を習得する気持ちが必要
自主学习	配付したプリントの復習
オフィスアワー	配信後の火曜日の17時まで

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標(SBOs)	授業形態
後期	1	・漢字の学習	難読漢字を読み、自分の知識を広める。難読漢字の前半を行う。	VOD
	2	・作文の学習	文章の構成を知り、誤りのある文章を添削しながら、書くことの楽しさを知る。	VOD
	3	・作文の学習	実際に作文を書いてみる。1000字程度の作文を課す。	VOD
	4	・履歴書の学習	履歴書についての考え方や書き方を学ぶ。	VOD
	5	・手紙の学習	手紙やビジネス文書の書き方を学ぶ。	VOD
	6	・面接の学習	面接試験の考え方や答え方を学ぶ。	VOD
	7	・文章の読解	文章を読む楽しさと目のつけどころについて学ぶ。	VOD
	8	・文章の読解	文章の展開をつかみ、その感想をまとめる。	VOD

2025年度 柔道整復科

【分野】 基礎分野 科学的思考の基礎・人間と生活

【科目】 総合基礎 I

【基本情報】

配当年次	1学年	担当教員	津野田 聡子		
単位数	2単位		つのだ さとこ		
必修・選択	必修	時間数	30		
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	VOD	15回

【授業情報】

授業概要	心理学の基礎的な知見を習得することで心の問題に関する科学的視点を養い、深い人間理解を目指す。
授業の方法	オンデマンド形式で授業を行います。
授業の一般目標 (GIO)	コミュニケーションと、それに関わる諸問題を理解した上で、実習をまじえコミュニケーション・スキルの獲得、上達を目指す。

【担当教員から】

教科書	必要に応じてプリントの配布、資料の提示などを行う。
参考書	参考書に関しては必要に応じて、授業中に指示する。
成績評価基準	毎授業の課題(小テスト・レポート等):シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。
成績評価方法	成績評価の基準(評価割合(%)) 課題(小テスト・レポート等)提出ー100% ※毎授業の課題における総合成績で評価する。 課題の評価を合計して60%以上で履修とする。 この科目は基礎分野・科学的思考の基盤人間と生活・生物 I の単位として認定されます。なお、本科目の単位履修には授業の70%以上の出席が必要です。提出期限内の課題の提出を持って出席とみなし、提出期限を過ぎた場合には欠席となります。提出期限内での提出をしっかりと行い、授業の出欠には充分注意してください。
担当教員から一言	★授業時間外に必要な学習内容 授業中は積極的にメモを取ること。そして、授業で学んだことを元に、日常生活における心理学的な事柄について考察する姿勢を受講生に求めます。心理学ではどの様にして「心を理解しようとしているか」を考えながら授業に臨んで下さい。
自主学習	予習: 必要なし 復習: 必須
オフィスアワー	配信後の火曜日の17時まで

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標(SBOs)	授業形態
前期	1	コミュニケーション心理学	心理学という学問に対する正しい理解を得る。	VOD
	2	心理学の歴史		VOD
	3	進化と心		VOD
	4	発達:乳幼児期の発達		VOD
	5	発達段階説,life cycle,identity		VOD
	6	性格と知能:理論と検査		VOD
	7	感覚と知覚:外界をしめるメカニズム、錯視		VOD
	8	動機づけ		VOD
	9	学習:条件づけ		VOD
	10	記憶①:記憶の理論と特性		VOD
	11	記憶②:記憶の低下、日常的な記憶		VOD
	12	臨床心理:ストレス、心理病理等	心の問題に対する論理的な思考を身につける。	VOD
	13	社会心理		VOD
	14	神経心理①:脳と心		VOD
	15	神経心理②:脳損傷と心的機能		VOD

2025年度 柔道整復科

【分野】 基礎分野 科学的思考の基礎・人間と生活

【科目】 総合基礎Ⅰ

【基本情報】				
配当年次	1学年	担当教員	谷 功	
単位数	1単位		たに いさお	
必修・選択	必修	時間数	16	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義 8

【授業情報】	
授業概要	柔道整復師が現場で活躍するためには同僚との人間関係、そして何より患者との信頼関係を構築することが必要不可欠である。この授業では、健常者とのコミュニケーションだけではなく、高齢者、障がい者といった配慮が必要な方々とのコミュニケーションを図る際の基本的姿勢やその特性に合わせた工夫、また関係職種間との連携やチームワーク等、実際の臨床場面で遭遇するコミュニケーション時に活用できる技法を学んでいく。この授業で学習したコミュニケーションの手法は臨床実習に活かされる。
関連科目	2年次 : 「総合基礎Ⅱ(対人関係の心理学)」「臨床実習Ⅱ」「臨床実習Ⅲ」 3年次 : 「臨床実習Ⅳ」
授業の方法	授業は配布プリントをベースに行う。講義の他、ロールプレイやグループワーク等、アクティブラーニングを用いて、コミュニケーションがより理解できるように授業展開を図る。
授業の一般目標 (GIO)	・他者への情報伝達に必要な基礎的コミュニケーション能力を養うとともに、他者に共感でき相手の立場に立って考えられる姿勢を修得する。

【担当教員から】	
教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識の修得 ・知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →開講期間中に実施する科目終了試験で評価する。
成績評価方法	【年間成績】: 開講期間中に科目終了試験を実施し、その成績を年間成績とする。 【その他】
担当教員から一言	授業では積極的に自分の意見を述べるとともに周りの人たちの意見にも耳を傾け、そして相手に共感できる姿勢を意識して臨んで下さい。また、直前の授業で行った内容の復習を行い次回授業に臨むと、より理解が深まると思います。
自主学習	予習: 必要なし 復習: 必須
オフィスアワー	前期: 土(開講期間中)9:30~16:40 2F 柔整科職員室 ※授業開講時間を除く

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標(SBOs)	授業形態
後期	1	人間関係とコミュニケーション ～オリエンテーション／個々人の認知世界～	・人間関係を構築する上で必要となる個々人の認知的傾向の存在を理解し、その重要性が説明できる。	講義
	2	人間関係の形成とさまざまな広がり	・各発達段階における人間関係の広がりが説明できる。	講義
	3	臨床場面におけるコミュニケーションの基本 ～コミュニケーションの重要性とその手段について～	・コミュニケーションの機能と役割、その手段が説明できる。	講義
	4	コミュニケーションの基本・意義・目的 ～対人関係における二者間のコミュニケーションプロセス～	・二者間におけるコミュニケーションプロセスが説明できる。	講義
	5	関わりを示す基本動作 ～SOLER理論について～	・関わりを示す5つの基本動作が説明できる。	講義
	6	質問の技法／納得と同意を得る技法 ～明確化・焦点化・要約の技法・助言トレーニング～	・質問の機能と役割が説明できる。	講義
	7	患者の特性に応じたコミュニケーションの実際 ～高齢者とのコミュニケーションの方法と留意点～	・高齢者とのコミュニケーション時における留意点が説明できる。	講義
	8	試験		試験

2025年度 柔道整復科

【分野】 基礎分野 科学的思考の基礎・人間と生活

【科目】 総合基礎Ⅰ

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	根岸 雅美	
単位数	1 単位		ねぎし まさみ	
科目必選区分	必修	時間数	16	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義 8 回

【授業情報】

授業概要	英語初心者の医療従事者向けに「診察でよく使う基本的なフレーズ」を取り上げ、外国人の患者とコミュニケーションがとれるようフレーズ練習を行う。例文内の単語や文法の解説に加え、時折英語のVOD教材やフォニックス教材にも触れ、ヒアリング・スピーキング力の向上を図りつつ、リアルな英文に接する機会も維持する。
授業の一般目標 (G10)	医療現場で英語を使って仕事ができることを目指す。また、医療に関する最新のニュース記事などを独力で聞き取れる力を伸ばす。

【担当教員から】

教科書	必要に応じてプリントの配布、資料の提示などを行う。
参考書	音声と例文で覚える、英語医療単語1000 (株；南雲堂) 病院スタッフ・シチュエーション英会話 (メジカルビュー社)
成績評価基準	定期試験：シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。 課題(レポート・小テスト等)：レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。
成績評価方法	成績評価の基準 (評価割合%) 到達目標達成確認試験成績-----95% (課題等を行わなかった場合は100%) 課題等-----5% (課題等を行った場合の加算割合)
履修の条件 留意点	課題の評価を合計して60%以上で履修とする。 この科目は基礎分野・科学的思考の基盤人間と生活・医療英語の単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の2/3以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。
★担当者からの メッセージ	★授業時間外に必要な学習内容 知っている英単語でも、ナチュラルスピードで話されると耳でキャッチできないことが多い。そのため、普段からできるだけ英語を聞いて理解する訓練をしてほしい。 また、授業で扱う医療に関する英語の語彙はすべて聞き取れてさらに使えるよう練習してほしい。
オフィスアワー	授業開講日の12:40以降 2F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期	1	英語を学ぶ意味と方法、医療面接の概要	オーラル英語を聞き取る上での基本を学び、専門に関わる英語を聞いて理解し、さらには使えることを目指す。また、専門に関わる語彙、表現を読んで理解できるようにする。	講義
	2	医療面接の基本的なフレーズ演習1 (主訴)		講義
	3	医療面接の基本的なフレーズ演習2 (現病歴)		講義
	4	医療面接の基本的なフレーズ演習3 (現病歴2)		講義
	5	医療面接の基本的なフレーズ演習4 (既往歴)		講義
	6	医療面接の基本的なフレーズ演習5 (既往歴2)		講義
	7	医療面接の基本的なフレーズ演習6 (家族歴、生活習慣、アレルギー歴等)		講義
	8	試験 (到達目標達成確認)		試験

【科目】 運動器の機能構造 I

【基本情報】				
配当年次	1学年	担当教員	合田 香奈	実務経験内容 (関連業務・所属・資格等)
単位数	8単位		ごうだ かな	接骨院勤務(5年) 開業年数(8年) 学校法人 呉竹学園附属施術所(4年)
必修・選択	必修	時間数	144	
開講学期	前期 後期	授業形態・回数	講義	72
【授業情報】				
授業概要	柔道整復学の理解、柔道整復実技の技術の修得をスムーズにしていくための必須科目である。人体の構造における運動器の基礎知識(骨、関節、筋肉、神経)を、解剖学とは違い臨床を見据えた視点で学習する。この科目は、卒業時のアウトカムを達成する為の最重要科目であり、この科目の知識を修得する事で多くの科目とリンクすることができる。			
実務経験の反映	実務において培った運動器の知識を、どのような場面でどのように活用していくことができるのかということ自身の経験を交え伝える。			
関連科目	1年次 : 「基本診察治療法」「柔整外傷論基礎」 2年次 : 「上肢の損傷・治療論」「下肢の損傷・治療論」「軟部組織損傷・治療論」 「応用診察治療法」「外傷予防法」 3年次 : 「体幹の損傷・治療論」「運動器の機能構造II」			
授業の方法	内容をただ暗記するだけではなく、運動器各部位の構造と機能を熟知し、解剖学とは違い臨床を見据えた視点で学習させ、その部位が損傷するとどのような異常が起き、その異常を正常化させるためにはどのような行為をすれば良いのかを思考、模索できるように展開していく。教科書の他、骨模型を使用してGWを実施し、骨を立体的に記憶させる。また必要であれば小テストを実施し、復習とテスト対策が出来るように進めていく。授業は板書とパワーポイントを併用し、分かりやすさを重視し進めていく。			
授業の一般目標(GIO)	<ul style="list-style-type: none"> 骨の部位名称及び特徴が説明できる。 関節の構成・種類・靭帯・補助装置・運動が説明できる。 筋の所属筋群と筋名・起始停止・支配神経・作用が説明できる。 中枢神経と末梢神経の区別が出来、働きが説明できる。 末梢神経の構成・構造・分布が説明できる。 1年間学んだ骨・筋・神経の体表解剖が理解できる。 			
【担当教員から】				
教科書	「柔道整復学を学ぶための運動器基礎知識」「解剖学」「運動学」			
参考書	「解剖学」「運動学」教科書			
成績評価基準	○授業の理解度 <ul style="list-style-type: none"> 基本的知識の修得 知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →前期・後期に行う各中間試験、期末試験で評価する。			
成績評価方法	【評価方法】 ○前期成績：中間試験と期末試験を実施し、各試験の平均を前期最終成績とする。 ○後期成績：中間試験と期末試験を実施し、各試験の平均を後期最終成績とする。 ○年間成績：前期最終成績と後期最終成績の平均を年間成績とする。			
	【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験(100%) ○期末試験の評価割合：期末試験(100%)			
担当教員から一言	人体の構造を知る上で不可欠な運動器(骨、関節、筋、神経)を解剖学と併走して重点的に学習していきます。初めて聞く単語が多く、また漢字も多いため初めは驚くかもしれませんが、この知識は柔道整復師として最も重要な必須の知識になりますので、根気よくがんばりましょう。			
自主学习	予習：必要なし 復習：必須			
オフィスアワー	前期：月～金 9:00～17:45 後期：月～土 9:00～17:45 2F 柔整科職員室 ※授業開講時間を除く			

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標 (SBOs)	授業形態	
前期	1	身体の区分と各部位の名称・人体の基本 面	<ul style="list-style-type: none"> ・身体の区分を理解し、各部位の名称が説明できる。 ・人体の基本面を理解し、説明できる。 	講義	
	2			講義	
	3	全身の骨	<ul style="list-style-type: none"> ・全身の主な骨の名称とその配置が説明できる。 	講義	
	4			講義	
	5			講義	
	6	上肢の骨	<ul style="list-style-type: none"> ・上肢の骨の配置と名称を理解し、各骨の主な部位名称とその特徴が説明できる。 	講義	
	7			講義	
	8			講義	
	9			講義	
	10			講義	
	11			講義	
	12	下肢の骨	<ul style="list-style-type: none"> ・下肢の骨の配置と名称を理解し、各骨の主な部位名称とその特徴が説明できる。 ・骨盤の構造と特徴を理解し説明できる。 	講義	
	13			講義	
	14			講義	
	15			講義	
	16			講義	
	17	前期中間試験			試験
	18	体幹の骨（脊柱・胸郭）	<ul style="list-style-type: none"> ・脊柱の全景と特徴を理解し説明できる。 ・椎骨の部位別の特徴を理解し、各椎骨の主な部位名称が説明できる。 ・胸郭の全景と特徴を理解し説明できる。 ・胸骨及び肋骨の部位名称と特徴が説明できる。 	講義	
	19			講義	
	20			講義	
	21			講義	
	22	骨の連結	<ul style="list-style-type: none"> ・骨の連結の概要を（線維性、軟骨性、滑膜性連結）理解し、各連結の概要が説明できる。 ・滑膜性連結の構造を説明できる。 ・関節の分類法を知り各分類が説明できる。 ・関節の運動について説明できる。 	講義	
	23			講義	
	24			講義	
	25	上肢の関節	<ul style="list-style-type: none"> ・上肢の骨連結の構造及び機能が説明できる。 	講義	
	26			講義	
	27			講義	
	28			講義	
	29			講義	
	30			講義	
	31	下肢の関節	<ul style="list-style-type: none"> ・下肢の骨連結の構造及び機能が説明できる。 	講義	
	32			講義	
	33			講義	
	34			講義	
	35			講義	
	36	前期期末試験			試験

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態	
後期	37	体幹の関節	<ul style="list-style-type: none"> ・脊柱の骨連結の構造及び機能が説明できる。 ・胸郭の骨連結の構造及び機能が説明できる。 	講義	
	38			講義	
	39			講義	
	40	筋の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・筋の種類（骨格筋・心筋・平滑筋）とその特徴が説明できる。 ・骨格筋の構造が説明できる。 ・骨格筋の収縮のしくみが説明できる。 ・筋収縮の型が説明できる。 	講義	
	41			講義	
	42	上肢の筋	<ul style="list-style-type: none"> ・上肢の筋の起始と停止、作用、支配神経が説明できる。 	講義	
	43			講義	
	44			講義	
	45			講義	
	46			講義	
	47			講義	
	48	下肢の筋	<ul style="list-style-type: none"> ・下肢の筋の起始と停止、作用、支配神経が説明できる。 	講義	
	49			講義	
	50			講義	
	51			講義	
	52			講義	
	53			講義	
	54			講義	
	55	後期中間試験			試験
	56				
	57	体幹の筋	<ul style="list-style-type: none"> ・体幹の筋の起始と停止、作用、支配神経が説明できる。 	講義	
	58			講義	
	59			講義	
	60			講義	
	61	神経系の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・神経の区分を理解しそれぞれの概要が説明できる。（中枢神経と末梢神経） ・中枢神経の基本構造と機能が説明できる。 ・ニューロンの基本構造と機能が説明できる。 ・ニューロンの種類と特徴が説明できる。 	講義	
	62			講義	
	63			講義	
	64			講義	
	65	末梢神経	<ul style="list-style-type: none"> ・神経根、神経叢、いわゆる末梢神経（名前を持つ個々の神経）の違いを理解し説明できる。 ・各神経叢から分枝する神経の走行と筋への分布、知覚の支配領域が説明できる。 	講義	
	66			講義	
67	講義				
68	講義				
69	運動器の体表解剖	<ul style="list-style-type: none"> ・上肢、下肢、体幹各部位の骨、関節、筋、神経の体表解剖を理解し、視診・触診・検査の部位を示すことができる。 	講義		
70			講義		
71			講義		
72	後期期末試験			試験	

【基本情報】

配当年次	1学年・午前コース	担当教員	森山 浩志		
単位数	2単位		もりやま ひろし		
必修・選択	必修	時間数	36		
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義回数・時間数	18回

【授業情報】

授業概要	現在の社会のニーズ（国民の医療費が40兆を超え、健康増進の意識が高まる日本では、スポーツ競技者や高齢者の外傷予防に対し柔道整復師に大きな期待が寄せられている。）に応えるためには競技者や高齢者の身体機能の特性を十分に理解し、各年齢に応じた評価と指導を行う必要がある。この授業ではその前段階として、運動に関わる身体の生理機能の基礎について学習する。この科目では、2年次の「高齢者・競技者の生理学的特徴と変化Ⅱ」及び「外傷予防法」の履修に必要なとなる前段階の知識を修得する。				
関連科目	2年次：「高齢者・競技者の生理学的特徴と変化Ⅱ」「外傷予防法」				
授業の方法	授業は配布プリントをベースに進める。より学生がイメージをしやすいように、プロジェクターによるスクリーンへの照射をしながらプリントの内容を解説していく。				
授業の一般目標 (GIO)	・筋収縮、運動調節、代謝、体温、骨の生理を理解し説明できる。 ・高齢者及び競技者における、筋収縮、運動調節、代謝、体温、骨の生理が説明できる。				

【担当教員から】

教科書	「生理学」「解剖学」				
参考書	特になし				
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識の修得 ・知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →後期に行う中間試験、期末試験で評価する。				
成績評価方法	【評価方法】 ○後期成績：中間試験（100点満点）と期末試験（100点満点）を実施しその平均を後期最終成績とする。 ○年間成績：後期最終成績を年間成績とする。				
	【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験（100%） ○期末試験の評価割合：期末試験（100%）				
担当教員から一言	授業中の疑問は、後回しにしないで、早目に解決すること。				
自主学習	予習：必要なし 復習：必須				
オフィスアワー	後期：月曜日 11:00～15:00 2F 柔整科職員室				

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標 (SB0s)	授業形態	
後期	1	筋収縮のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> 筋収縮のしくみを説明できる。 筋収縮のしくみにおける年齢別の特徴を説明できる。 	講義	
	2			講義	
	3			講義	
	4	中枢神経系	<ul style="list-style-type: none"> 中枢神経の区分と各部位の概要が説明できる。 	講義	
	5			講義	
	6	運動の調節のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> 運動調節のしくみを説明できる。 運動調節のしくみにおける年齢別の特徴を説明できる。 	講義	
	7			講義	
	8			講義	
	9	後期中間試験			試験
	10	体温と体温調節	<ul style="list-style-type: none"> 体温について説明できる。 体温調節のしくみにおける年齢別の特徴を説明できる。 	講義	
	11			講義	
	12			講義	
	13	代謝のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> 代謝のしくみを説明できる。 代謝のしくみにおける年齢別の特徴を説明できる。 	講義	
	14			講義	
	15			講義	
	16	骨の生理	<ul style="list-style-type: none"> 骨の生理を説明できる。 骨の生理における年齢別の特徴を説明できる。 	講義	
	17	高齢者と競技者の生理学的特徴	<ul style="list-style-type: none"> 一般的な生理学的身体機能を理解し、それに対する高齢者と競技者の特徴が説明できる。 	講義	
	18	後期期末試験			試験

2025年度 柔道整復科

【分野】 専門基礎分野 保健医療福祉と柔道整復の理念

【科目】 柔道整復師の業務と職業倫理

【基本情報】

配当年次	1学年	担当教員	千田 由美子	実務経験内容 (関連業務・所属・資格等)
単位数	2単位		ちだ ゆみこ	接骨院勤務(5年) 学校法人 呉竹学園附属施術所(13年)
必修・選択	必修	時間数	36	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義 18

【授業情報】

授業概要	この授業は柔道整復師を目指すために最も必要な職業倫理を学ぶ。柔道整復師の業務と保健医療の概要を学習し、柔道整復師の業務を法に基づき正しく理解する。 この科目では、臨床実習に臨むために最も必要な倫理と法に則った正しい柔道整復業務を行うための意識を養う。
実務経験の反映	実務において自身が構築した柔道整復師としてのプロフェッショナリズム及び職業に対する姿勢、倫理観をもとに、この資格の素晴らしさを伝えていく。
関連科目	1年次 : 「臨床実習Ⅰ」 2年次 : 「臨床実習Ⅱ」「臨床実習Ⅲ」 3年次 : 「臨床実習Ⅳ」「柔整社会学」
授業の方法	教科書をベースに板書及び補足の配布プリントにて授業をすすめる。授業のポイントを一通り伝えた後、当該内容にて簡単なグループワークを交え、自身と他者との意見交換を行い共有していく。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> 保健医療、保険制度の概要を理解し説明できる。 柔道整復師としての適切な業務を理解し説明できる。 柔道整復師法を理解し説明できる。

【担当教員から】

教科書	「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」「関係法規」
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度 <ul style="list-style-type: none"> 基本的知識の修得 知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →前期に行う各中間試験、期末試験で評価する。
成績評価方法	【評価方法】 ○前期成績：中間試験（100点満点）と期末試験（100点満点）を実施しその平均を前期最終成績とする。 習熟度テストを授業時間に実施し評価に反映する。 ○年間成績：前期最終成績を年間成績とする。
	【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験（100%） ○期末試験の評価割合：期末試験（100%）
担当教員から一言	柔道整復師の業界は医療保険の療養費を請求するに当たり職業倫理を問われています。目先の利益に惑わされず、患者主体の施術をすることで地域に貢献できる柔道整復師を目指してもらえれば幸いです。
自主学習	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	前期：月～金 9：00～17：45 後期：月～金 9：00～17：45 2F 柔整科職員室 ※授業開講時間を除く

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標 (SBOs)	授業形態	
前期	1	生命倫理と医療における倫理	・生命倫理と医療における倫理との関係性を理解し説明できる。	講義	
	2	社会保障制度	<ul style="list-style-type: none"> ・わが国の法の基礎を知り、柔道整復師との関わりを理解し説明できる。 ・社会保険関係法規を知り、社会保険制度の概要を理解し説明できる。(健康保険法、国民健康保険法、高齢者医療確保法、介護保険法など) ・個人情報保護法を理解し、説明できる。 ・医療保険制度を理解し説明できる。 ・療養の給付と療養費との違いを理解し、償還払いを説明できる。 ・柔道整復師業務における療養費制度を理解し、受領委任払いを説明できる。 	講義	
	3			講義	
	4			講義	
	5			講義	
	6			柔道整復師と患者の権利	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の権利を理解し説明できる。(インフォームド・コンセントなど) ・柔道整復業務のリスク・マネジメントについて理解し説明できる。
	7	柔道整復師と職業倫理	・柔道整復師の業務範囲とその心得を学び、柔道整復師の倫理綱領を理解し説明できる。	講義	
	8	柔道整復師法	<ul style="list-style-type: none"> ・柔道整復師法の目的や定義を理解し説明できる。 ・柔道整復師の業務範囲を理解し説明できる。 ・施術所の届出について理解し説明できる。 ・広告と名称制限を理解し説明できる。 	講義	
	9			講義	
	10	前期中間試験			試験
	11	柔道整復師法	<ul style="list-style-type: none"> ・柔道整復師国家試験を合格した後の免許申請を理解し説明できる。 ・免許申請後の諸々の手続を理解し説明できる。 ・指定登録機関及び指定試験機関の規定を理解し説明できる。 	講義	
	12			講義	
	13			講義	
	14			講義	
	15	他職種との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・医師法と柔道整復師法との違いを理解し説明できる。 ・医療法にある医療圏毎の機能について理解し説明できる。 ・他の医療従事者の資格法と柔道整復師法との違いを理解できる。 ・医接連携(他職種とのチーム医療)を理解し説明できる。 	講義	
	16			講義	
	17			講義	
	18	前期期末試験			試験

2025年度 柔道整復科

【分野】 専門基礎分野 保健医療福祉と柔道整復の理念

【科目】 健康の意義

【基本情報】

配当年次	1学年	担当教員	難波 亜希		
単位数	2単位		なんば あき		
必修・選択	必修	時間数	36		
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義	18

【授業情報】

授業概要	地域包括医療の必要性と重要性が高まる現在、柔道整復師もチーム医療の一手を担う重要な資格となっている。柔道整復師は専門的技術はもちろんのこと、患者貢献のためとなる多くの知識を備えることも必要不可欠であり、この授業では現在の医療の根底となる公衆衛生的な観点からWHOの活動を始め、感染症や消毒法、生活環境や環境問題と健康との関連について医療における一般常識を展開していく。この科目は3年次の「柔整関連医学Ⅰ②」の履修に必要な知識となっている。
関連科目	1年次 : 「総合基礎Ⅰ(現代社会と健康)」 3年次 : 「柔整関連医学Ⅰ②」
授業の方法	教科書ベースに板書を交え授業を進めていく。
授業の一般目標(GIO)	・健康の概念及びWHOの活動について理解し説明できる。 ・感染症、消毒法、生活環境、環境問題について説明することができる。

【担当教員から】

教科書	「衛生学・公衆衛生学」
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識の修得 ・知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →前期に行う各中間試験、期末試験で評価する。
成績評価方法	【評価方法】 ○前期成績：中間試験（100点満点）と期末試験（100点満点）を実施しその平均を前期最終成績とする。 ○年間成績：前期最終成績を年間成績とする。
	【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験（100%） ○期末試験の評価割合：期末試験（100%）
担当教員から一言	公衆衛生学は耳慣れない言葉かもしれませんが、「公の生命を守る」学問です。みなさんが一度は罹ったことや聞いたことのあるインフルエンザや水ぼうそうって何が原因なのか。病院って清潔だけど、どうやって消毒するんだろうか。毎日使う水はどうやってきれいになっているんだろうか。など、身近な問題に直結することがこの教科のテーマです。これらの問題を学ぶことで、一緒に「公の生命」つまりはみなさんの生命を守りませんか。
自主学習	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	前期：水 9：30～16：40 2F 柔整科職員室 ※授業開講時間を除く

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標 (SB0s)	授業形態	
前期	1	衛生学、公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動	<ul style="list-style-type: none"> ・WHOとその活動について説明できる。 ・健康の概念を理解し、健康維持のための生活の役割を理解し説明できる。 ・健康を測定する手法が説明できる。 	講義	
	2	健康の概念		講義	
	3	疾病予防と健康管理	<ul style="list-style-type: none"> ・疾病予防の段階とその予防法を説明できる。 	講義	
	4	感染症の予防	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の概要（感染と発病・感染成立の条件・予防対策）を説明できる。 ・感染症の原因（病原性微生物）を列挙できる。 ・感染症法による感染症の類型を分類できる。 	講義	
	5			講義	
	6			講義	
	7	消毒	<ul style="list-style-type: none"> ・消毒法を目的別に分類し定義が説明できる。 ・消毒法の条件と実施上の注意が説明できる。 ・消毒法の種類と方法、適応が説明できる。 	講義	
	8			講義	
	9	前期中間試験			試験
	10	環境衛生	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題とその内容が説明できる。 ・環境要因を分類し身体や環境に与える影響が説明できる。 ・代表的な公害を列挙しその概要が説明できる。 ・空気の性状を理解し、大気汚染について説明できる。 	講義	
	11			講義	
	12			講義	
	13			講義	
	14	生活環境・食品衛生活動	<ul style="list-style-type: none"> ・水の衛生と水質汚濁について説明できる。 ・食中毒について理解し原因となる食品との関係を説明できる。 	講義	
	15			講義	
	16	疫学	<ul style="list-style-type: none"> ・疫学の意義を理解しその必要性が説明できる。 ・疫学の調査方法を理解し、それぞれの方法の特徴が説明できる。 	講義	
	17			講義	
	18	前期期末試験			試験

2025年度 柔道整復科

【分野】 専門基礎分野 保健医療福祉と柔道整復の理念

【科目】 柔道Ⅰ

【基本情報】					
配当年次	1学年	担当教員	鈴木 猛		
単位数	2単位		すずき たけし		
必修・選択	必修	時間数	72		
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	実技	36
【授業情報】					
授業概要	柔道整復術の源流は戦国時代の武術にたどることができる。武術の書物には「殺法」「活法」の記述がみられる。殺法は敵を殺傷する技、活法は外傷を治療する技術であり、殺法と活法は時代とともに発展・変遷をとげた。これらのうち活法が発展して現在の柔道整復術ができあがったといわれる。現在は「活法」をメインとする業務とはなっているが、「精力善用」「自他共栄」という柔道の精神を通じ礼節や他者との関わり、柔道の技の形を学び、柔道整復術の原点を理解する。この科目では、3年次の「柔道Ⅱ」の履修に必須の技術を修得する。				
関連科目	3年次 : 「柔道Ⅱ」				
授業の方法	各項目のポイント、注意点、意味合いを説明し、教員によるデモンストレーションを行い学生に練習させていく。受け身はマットを用いて反復練習ができる環境をつくる。投げの形については、実演の他形のDVDを用いて理解を深められるように配慮する。立ち技乱取りについては、受け身の修得が十分と判断できた時点で取り組むようにする。				
授業の一般目標 (G10)	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい礼法ができる。 ・各種受け身ができる。 ・投げの形の実演ができる。 ・寝技及び立ち技乱取りをすることができる。 				
【担当教員から】					
教科書	特になし				
参考書	特になし				
成績評価基準	○授業の理解度と柔道技能の習熟度 ・基本的知識及び技能の修得 →前期・後期に行う期末試験で評価する。				
成績評価方法	【評価方法】 ○前期成績：期末試験（100点満点）を実施し、その成績を前期最終成績とする。 ○後期成績：期末試験（100点満点）を実施し、その成績を後期最終成績とする。 ○年間成績：前期最終成績と後期最終成績の平均を年間成績とする。				
	【評価詳細】 ○期末試験の評価割合：実技技能試験（100%）				
担当教員から一言	柔道では礼節を重んじ、必ず相手の身になって考えることが重要です。単に相手を投げるだけでなく、受け身を取りやすく引手をしっかり持って投げるなど「思いやり」の精神が治療家として通じるところとなります。この授業では体を使って、骨、筋、靭帯などの運動機能を理解し、崩し、体さばきから技の合理性を理解できるような指導に取り組んでいきます。自らの体を使ってスポーツの理解を深め、怪我の発生機転を理解し考えることができる人材の育成を目指します。				
自主学習	予習：必要なし 復習：必須（適宜柔道場の施設使用願いを提出し、教員指導のもと練習すること）				
オフィスアワー	前期：火 9：30～15：00 後期：火 9：30～15：00 2F 柔整科職員室 ※授業開講時間を除く				

【授業計画】				
学期	回数	授業内容	到達目標 (SB0s)	授業形態
前期	1	柔道の基本事項	<ul style="list-style-type: none"> 柔道の意義が理解できる 柔道着を正しく着ることができる。 礼法の意義が説明できる。 座礼、立礼、拝礼を理解し正しく行うことができる。 柔道の立ち姿勢（自然本体、自護体）を理解し、その姿勢がとれる。 柔道の歩み（並足、継足）を理解し行うことができる。 正しい組み方を知り、相手と組み合うことができる。 	実技
	2			実技
	3			実技
	4			実技
	5			実技
	6			実技
	7	受け身	<ul style="list-style-type: none"> 受け身の目的を理解し説明することができる。 後ろ受け身、横受け身、前受け身、前廻り受け身の意義を理解し、正しく行うことができる。 	実技
	8			実技
	9			実技
	10			実技
	11			実技
	12			実技
	13			実技
	14	固め技 寝技乱取り	<ul style="list-style-type: none"> 固め技（袈裟固め、横四方固め、縦四方固め、上四方固め、肩固め）の手法を理解し、正しく行うことができる。 寝技乱取りの手法を理解し実施することができる。 	実技
	15			実技
	16			実技
	17			実技
	18	前期期末試験		
後期	19	投げ技	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な投げ技を身に付け、互に投げ合い正しく間合いを取ることができる。 	実技
	20			実技
	21			実技
	22			実技
	23	投げの形	<ul style="list-style-type: none"> 投げの形の礼法を理解し正しく実施することができる。 手技（浮落し、背負投げ、肩車）の間合い動きを理解し、正しく実施することができる。 腰技（浮腰、払い腰、釣込み腰）の間合い動きを理解し、正しく実施することができる。 足技（送足払い、支釣込足、内股）の間合い動きを理解し、正しく実施することができる。 	実技
	24			実技
	25			実技
	26			実技
	27			実技
	28			実技
	29			実技
	30			実技
	31			実技
	32	立ち技乱取り	<ul style="list-style-type: none"> 乱取りの礼法を理解し正しく実施することができる。 約束乱取りの手法を理解し、安全に実施することができる。 	実技
33	実技			
34	実技			
35	実技			
36	後期期末試験			試験

2025年度 柔道整復科

【分野】 専門分野 基礎柔道整復学

【科目】 柔整外傷論基礎

【基本情報】

配当年次	1学年	担当教員	安原 省吾	実務経験内容 (関連業務・所属・資格等)
単位数	6単位		やすはら しょうご	整形外科勤務(3年)、接骨院勤務(2年) 学校法人 呉竹学園附属施術所(12年)
必修・選択	必修	時間数	108	
開講学期	前期 後期	授業形態・回数	講義	54

【授業情報】

授業概要	この授業では、柔道整復師の施術対象となる外傷（骨折、脱臼、捻挫、打撲、挫傷）の概要、発生機序、症状、合併症について学習する。また外傷を理解するうえで必須となる、骨、関節の基本構造を先行知識として当該科目の前半に学習する。 この科目では、2年次以降の臨床柔道整復学を学習する前段階として必須となる知識を修得する。
実務経験の反映	整形外科と接骨院での勤務経験を活かして、授業で学ぶ内容と臨床との共通点及び違いを適宜説明し、より深い知識として定着できるようにしていく。
関連科目	1年次：「運動器の機能構造Ⅰ」「基本診察治療法」「柔整外傷保存療法」 2年次：「上肢の損傷・治療論」「下肢の損傷・治療論」「軟部組織損傷・治療論」 「応用診察治療法」 3年次：「体幹の損傷・治療論」「総合柔道整復論②」
授業の方法	教科書・プリントをベースに、パワーポイントや板書を交えて授業を進め、理解を深めやすい工夫をする。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> 骨及び関節の構造と機能を理解し、構造上の弱点と損傷の関係を系統的に理解し説明できる。 骨折及び脱臼、捻挫の発生機序と損傷形態との関係を理解し説明できる。 一般外傷症状の病態が理解できる。骨折・脱臼の固有症状が理解できる。 骨折・脱臼の合併症とその病態を理解できる。

【担当教員から】

教科書	「柔道整復学・理論編」「施術の適応と医用画像の理解」
参考書	「柔道整復学を学ぶための運動器基礎知識」
成績評価基準	○授業の理解度 <ul style="list-style-type: none"> 基本的知識の修得 知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →前期・後期に行う各中間試験、期末試験で評価する。
成績評価方法	【評価方法】 ○前期成績：中間試験と期末試験を実施し、各試験の平均を前期最終成績とする。 ○後期成績：中間試験と期末試験を実施し、各試験の平均を後期最終成績とする。 ○年間成績：前期最終成績と後期最終成績の平均を年間成績とする。
	【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験（100%） ○期末試験の評価割合：期末試験（100%）
担当教員から一言	骨折や脱臼を施術する上で、まずは正常な骨や関節の構造を知る必要があります。それを理解した上で、骨の生理的機能、骨折の人体機能への影響など理論的・視覚的に学習できるよう展開します。怪我を治す為の前段階の基礎的知識をこの講義で身につけて下さい。
自主学習	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	前期：火～土 9：00～17：45 後期：月～金 9：00～17：45 2F 柔整科職員室 ※授業開講時間を除く

【授業計画】					
学期	回数	授業内容	到達目標 (SBOs)	授業形態	
前期	1	骨と関節の構造・機能	・人体の構造の概要を説明できる。	講義	
	2		・骨の構造、役割、形状を説明できる。	講義	
	3		・骨の発生と成長のしくみを説明できる。	講義	
	4		・骨の連結とその種類を説明できる。	講義	
	5		・関節構造、機能の概要、構成、分類を説明できる。	講義	
	6			講義	
	7	骨折・脱臼の発生機序と損傷形態	・損傷時に加わる力について説明できる。	講義	
	8		・骨折、脱臼の定義について説明できる。	講義	
	9		・骨損傷に関わる力を説明できる。	講義	
	10		・外傷性、病的、疲労性骨折の分類と相違を説明できる。	講義	
	11		・骨折の部位による分類を説明できる。	講義	
	12		・各脱臼の発生頻度を説明できる。	講義	
	13	骨折・脱臼の各分類	・外傷性、病的脱臼の分類と相違を説明できる。	講義	
	14		・脱臼の損傷程度、関節面の相互の位置による分類を説明できる。	講義	
	15		・骨損傷の程度による分類を説明できる。	講義	
	16		・骨折線の方向による分類とその概要を説明できる。	講義	
	17		・開放性・閉鎖性骨折の相違を説明できる。	講義	
	18	前期中間試験			試験
	19	一般外傷症状と骨折の固有症状	・骨折の数による分類を説明できる。	講義	
	20		・骨折の外力の働いた部位と働き方による分類を説明できる。	講義	
	21		・脱臼数による分類と開放性閉鎖性脱臼の相違を説明できる。	講義	
	22		・脱臼の外力の働いた部位と発生時期による分類を説明できる。	講義	
	23		・脱臼の受傷後の経過と頻度、機序による分類を説明できる。	講義	
	24	骨折・脱臼の固有症状・合併症	・痛みの基礎について説明できる。	講義	
	25		・骨折と脱臼の一般外傷症状とその概要を説明できる。	講義	
	26		・骨折と脱臼を比較した一般外傷症状の特徴を説明できる。	講義	
	27		・骨折の固有症状とその意義を説明できる。	講義	
	28	骨折・脱臼の合併症	・骨折にみられる全身症状を説明できる。	講義	
	29		・脱臼の固有症状とその意義を説明できる。	講義	
	30		・脱臼に伴う関節構成組織の病態を説明できる。	講義	
	31		・骨折、脱臼に併発する主要な損傷を説明できる。	講義	
	32		・柔道整復術の適否を説明できる。	講義	
	33		・血管損傷が疑われる場合の判断と対応を説明できる。	講義	
	34	骨折・脱臼の合併症	・意識障害と呼吸運動障害を伴う損傷を説明できる。	講義	
	35		・筋肉及び腱の損傷の特徴を説明できる。	講義	
	36		・末梢神経損傷後の症状を説明できる。	講義	
37	骨折・脱臼の合併症	・各続発症の主要な原因とその特徴を説明できる。	講義		
38		・骨折に続発する主要な損傷を説明できる。	講義		
39		・脱臼に続発する主要な損傷を説明できる。	講義		
40	前期期末試験			試験	

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SB0s)	講義形態	
後期	37	骨折・脱臼の合併症	<ul style="list-style-type: none"> 後遺症の主要な原因・発生予防・特徴を説明できる。 骨折の癒合日数を説明できる 	講義	
	38			講義	
	39			講義	
	40	小児の骨折	<ul style="list-style-type: none"> 小児骨折の特徴を説明できる。 骨端軟骨損傷の分類を説明できる。 治療上の特徴を説明できる。 	講義	
	41			講義	
	42	高齢者の骨折	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者骨折の特徴を説明できる。 治療上の注意点を説明できる。 治療の目標を説明できる。 	講義	
	43			講義	
	44	捻挫の発生機序	<ul style="list-style-type: none"> 捻挫の概念と定義を説明できる。 	講義	
	45	後期中間試験			試験
	46	捻挫の発生機序・症状・損傷形態 ・徒手検査法	<ul style="list-style-type: none"> 捻挫の症状と分類を説明できる。 捻挫の病態と他損傷との鑑別点を説明できる。 受傷関節の周辺軟部組織の病態と徒手検査法が説明できる。 	講義	
	47			講義	
	48			講義	
	49	<ul style="list-style-type: none"> 外傷予防 競技者の外傷予防の概論 競技者の外傷予防のための実技 	<ul style="list-style-type: none"> 外傷予防の第1～3段階について説明できる。 競技者の外傷予防の概論と発生要因について説明できる。 外傷の予防対策について説明できる。 外傷予防に必要なコンディショニングの方法と実際について説明できる。 	講義	
	50			講義	
	51			講義	
	52			講義	
	53			講義	
	54	後期期末試験			試験

2025年度 柔道整復科

【分野】 専門分野 基礎柔道整復学

【科目】 柔整外傷保存療法

【基本情報】

配当年次	1学年	担当教員	安原 省吾	実務経験内容 (関連業務・所属・資格等)
単位数	2単位		やすはら しょうご	整形外科勤務(3年)、接骨院勤務(2年) 学校法人 呉竹学園附属施術所(12年)
必修・選択	必修	時間数	36	
開講学期	前期 後期	授業形態・回数	講義	18

【授業情報】

授業概要	この授業では、外傷（骨折、脱臼、軟部組織損傷）の正常な治癒経過及び異常な治癒経過（合併症の発生等）を理解するとともに損傷治癒のゴール設定を行い、正常な治癒経過をたどるための、施術、再評価、指導管理の手法をいくつかの外傷を例に挙げ学習する。
実務経験の反映	整形外科と接骨院での勤務経験を活かして、授業内容で学ぶことと臨床との違いを適宜説明し、より深い知識として定着できるようにしていく。
関連科目	1年次：「柔整外傷論基礎」「運動器の機能構造Ⅰ」「基本診察治療法」 2年次：「上肢の損傷・治療論」「下肢の損傷・治療論」「軟部組織損傷・治療論」 3年次：「体幹の損傷・治療論」
授業の方法	教科書・プリントをベースに、パワーポイントや板書を交えて授業を進め、理解を深めやすい工夫をする。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> 骨折、脱臼、軟部組織損傷の正常な治癒経過を理解し説明できる。 損傷状態及び修復過程を理解したうえで、当該損傷のゴール設定をすることができる。 治癒経過中に生じうる異常経過（合併症等）を理解し説明できる。 正常な治癒経過をたどるために必要な施術、再評価、指導管理の手法を理解し説明できる。 治癒経過から当該損傷の治癒判定の手法を理解し説明できる。

【担当教員から】

教科書	「柔道整復学・理論編」
参考書	「柔道整復学を学ぶための運動器基礎知識」
成績評価基準	○授業の理解度 <ul style="list-style-type: none"> 基本的知識の修得 知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →後期に行う中間試験、期末試験で評価する。
成績評価方法	【評価方法】 ○後期成績：中間試験（100点満点）と期末試験（100点満点）を実施しその平均を後期最終成績とする。 ○年間成績：後期最終成績を年間成績とする。
	【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験（100%） ○期末試験の評価割合：期末試験（100%）
担当教員から一言	炎症と組織の修復過程の知識を基に、骨折、脱臼、軟部組織損傷の正常な治癒経過を理解する必要があります。また、損傷状態及び修復過程を理解したうえで、当該損傷のゴール設定を理解する必要があります。ゴール設定を理解するには、評価法に関する内容の理解と流れ及び治療法について知ることが重要です。最終的には治癒経過から当該損傷の治癒判定ができる能力を養います。
自主学习	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	後期：月～金 9：00～17：45 2F 柔整科職員室 ※授業開講時間を除く

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標 (SB0s)	授業形態	
後期	1	当該損傷のゴール設定	・医療面接と再評価の必要性及びその概要を説明できる。	講義	
	2		・全身と局所の診察について説明できる。	講義	
	3	骨折・脱臼・軟部組織損傷の治癒経過	・創傷と周辺軟部組織の治癒機序を説明できる。	講義	
	4		・骨折と脱臼の治癒機序を説明できる。	講義	
	5	骨折・脱臼・軟部組織損傷の治療法	・骨折、脱臼における主要な整復法の概要を説明できる。	講義	
	6			講義	
	7		・骨折、脱臼における主要な固定法の概要を説明できる。	講義	
	8			講義	
	9	後期中間試験			試験
	10	骨折・脱臼・軟部組織損傷の治療法	・主要な後療法について説明できる。	講義	
	11		・脱臼の整復障害	講義	
	12			講義	
	13		・骨折と脱臼の経過と予後を説明できる。	講義	
	14	指導管理・当該損傷の治癒判定	・主要な外傷後の注意事項、指導管理、治癒判定について説明できる。 ・治癒経過中に生じうる異常経過の概要を説明できる。	講義	
	15			講義	
	16			講義	
	17			講義	
	18	後期期末試験			試験

【科目】 柔整人体構造機能学基礎

【基本情報】					
配当年次	1学年	担当教員	横井 大遥	実務経験内容 (関連業務・所属・資格等)	
単位数	4単位		よこい ともりのり	接骨院勤務(5年) 学校法人 呉竹学園附属施術所(4年)	
必修・選択	必修	時間数	72		
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義	36
【授業情報】					
授業概要	医療従事者としての基本的知識である人体の構造と機能を学ぶ土台となる科目である。人体構造学(解剖学)、人体機能学(生理学)の必要性を臨床的観点からみつけ、現場における解剖学、生理学の知識の必要性を理解する。				
実務経験の反映	臨床現場に於いて解剖学、生理学の知識を多く活用する場があった経験を踏まえ、それらの知識を使う場面やその知識の活用法を交えて伝えていく。				
関連科目	2年次 : 「人体構造学」「人体機能学」 3年次 : 「総合柔道整復論①」「柔整関連医学Ⅰ①」「柔整関連医学Ⅱ①」				
授業の方法	授業はプリントをベースに行う。内容をできるだけかみくだき、解剖学及び生理学の全体像が理解できるように展開していく。授業の最初に随時、授業内容の定着度を確認するための小テストを実施しその結果をフィードバックし、理解の足りない部分を補填していく。				
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> ・身体の構成単位である、細胞、組織、器官、器官系について理解し説明できる。 ・各器官系に属する個々の器官の構造と機能に関して説明できる。 				
【担当教員から】					
教科書	特になし				
参考書	「解剖学」「生理学」				
成績評価基準	○授業の理解度 <ul style="list-style-type: none"> ・基本的知識の修得 ・知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →前期・後期に行う各中間試験、期末試験で評価する。				
成績評価方法	【評価方法】 ○前期成績：中間試験と期末試験を実施し、各試験の平均を前期最終成績とする。 ○後期成績：中間試験と期末試験を実施し、各試験の平均を後期最終成績とする。 ○年間成績：前期最終成績と後期最終成績の平均を年間成績とする。				
	【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験(100%) ○期末試験の評価割合：期末試験(100%)				
担当教員から一言	この科目は、初めて医療系の勉強する学生さんの入門編の科目となっています。食べたものはどのように体に取り込まれるのか？おしっこはどのようにつくられるのか？などの一般の方が疑問に思うような身体のしくみを理解することができます。できるだけ教科書にある専門用語をわかりやすく訳しながら、みなさんに伝わるように授業を展開していきたいと思っています。コメディカルへの第一歩、一緒にがんばりましょう！！				
自主学習	予習：必要なし 復習：必須				
オフィスアワー	前期：火～土 9：00～17：45 後期：火～土 9：00～17：45 2F 柔整科職員室 ※授業開講時間を除く				

【授業計画】					
学期	回数	授業内容	到達目標 (SB0s)	授業形態	
前期	1	からだのつくりとしくみ (解剖学・生理学の基礎)	・生命活動に必要なとなる器官系の分類と各器官系の主な役割が説明できる。	講義	
	2		・人体の発生について説明できる。 ・細胞の構造と機能が説明できる。	講義	
	3		・4大組織の分類と各組織の特徴が説明できる。	講義	
	4			講義	
	5	消化のしくみ (消化器系器官の構造と機能)	・消化器系器官の種類と位置関係、構造の特徴が説明できる。	講義	
	6		・栄養素の消化・吸収のしくみを説明できる。	講義	
	7			講義	
	8			講義	
	9	前期中間試験			試験
	10	呼吸のしくみ (呼吸器系器官の構造と機能)	・呼吸器系器官の種類と位置関係、構造の特徴が説明できる。	講義	
	11		・ガス交換のしくみを説明できる。	講義	
	12			講義	
	13			講義	
	14	排泄のしくみ (泌尿器系器官の構造と機能)	・泌尿器系器官の種類と位置関係、構造の特徴が説明できる。	講義	
	15		・排泄のしくみを説明できる。	講義	
	16			講義	
	17			講義	
	18	前期期末試験			試験
後期	19	心臓のしくみと血液の流れ (脈管系の概要)	・脈管系器官の種類と位置関係、循環の流れが説明できる。	講義	
	20		・血管の構造、血圧について説明できる。	講義	
	21		・心臓の構造の特徴を説明できる。 ・主幹動脈の走行と主な枝の種類を説明できる。	講義	
	22			講義	
	23			講義	
	24		・静脈の走行を説明できる。 ・静脈と動脈の違いを理解し説明できる。 (門脈、奇静脈)	講義	
	25			講義	
	26		・リンパ器官の特徴とリンパ管の走行を説明できる。	講義	
	27	後期中間試験			試験
	28	からだの機能を調節するしくみ (内分泌系器官の構造と機能) (自律神経の機能)	・主な器官への自律神経の作用を説明できる。	講義	
	29		・内分泌器官の種類と構造を説明できる。 ・主なホルモンとその作用を説明できる。	講義	
	30			講義	
	31			講義	
	32	体液の区分と物質移動のしくみ	・体液の区分と組成を説明できる。 ・血液の組成とその特徴が説明できる。	講義	
	33		・止血機構が説明できる。	講義	
	34		・免疫について説明できる。	講義	
	35		・血液型、酸塩基平衡について説明できる。	講義	
	36	後期期末試験			試験

2025年度 柔道整復科

【分野】 専門分野 臨床柔道整復学

【科目】 柔整後療治療論

【基本情報】

配当年次	1学年	担当教員	東 佑樹	実務経験内容 (関連業務・所属・資格等)
単位数	2単位		あずま ゆうき	接骨院勤務(7年) 学校法人 呉竹学園附属施術所(8年)
必修・選択	必修	時間数	36	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義 18

【授業情報】

授業概要	柔道整復師が行う治療の1つに後療法がある。後療法は手技療法・運動療法・物理療法から成り、物理療法はその一端を担う。損傷部位の受傷後から治癒までの過程を理解し、より良い治癒に向け適切な物理療法を選択できる思考力・判断力が柔道整復師には求められる。この授業では各種物理療法を治癒過程のどの段階に用いるのが適切かを判断できる知識を修得する。この科目は後期の「柔整外傷保存療法」を学ぶ上で必要な知識となる。
実務経験の反映	自身が接骨院にて実施していた物理療法の経験をもとに、使用上の注意点やポイントを座学的知識に上乗せして学生に伝えていく。
関連科目	1年次 : 「柔整外傷保存療法」 2年次 : 「応用診察治療法」
授業の方法	授業は配布プリントをベースとし、板書を交えて展開していく。一定範囲終了ごとに確認試験を行い知識の定着を確認する。
授業の一般目標 (GIO)	・ 損傷を受け炎症から修復までの過程を理解し説明できる。 ・ 疼痛の概要及びメカニズムを説明できる。 ・ 適切な物理療法を選択する根拠が説明できる。

【担当教員から】

教科書	「柔道整復学・理論編」
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度 ・ 基本的知識の修得 ・ 知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 → 前期に行う各中間試験、期末試験及び進級試験で評価する。
成績評価方法	【評価方法】 ○ 前期成績：中間試験（100点満点）と期末試験（100点満点）を実施しその平均を前期最終成績とする。 ○ 年間成績：前期最終成績を年間成績とする。 【評価詳細】 ○ 中間試験の評価割合：中間試験（100%） ○ 期末試験の評価割合：期末試験（100%）
担当教員から一言	みなさんは接骨院に通ったことがありますか。その際に、温めたり超音波をしたり電気を当てたりした経験があると思います。当たり前のように行われている治療ですが、それぞれ意味があって行われている治療なのです。どのような時期にどのような治療を行うのが大事になってきます。この授業では“ケガをすることは”と“ケガを治す”を二本柱にし学習していきます。
自主学習	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	前期：月～金 9：00～17：45 2F 柔整科職員室 ※授業開講時間を除く

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標 (SB0s)	授業形態	
前期	1	炎症と組織修復	<ul style="list-style-type: none"> ・炎症の概要が説明できる。 ・炎症と修復の過程が説明できる。 	講義	
	2			講義	
	3			講義	
	4			講義	
	5	疼痛	<ul style="list-style-type: none"> ・神経の区分を理解しそれぞれの概要が説明できる。 (中枢神経と末梢神経) ・ニューロンの基本構造と機能が説明できる。 ・ニューロンの種類と特徴が説明できる。 ・疼痛の種類、受容器の仕組みが説明できる。 ・疼痛の伝導路が説明できる。 	講義	
	6			講義	
	7			講義	
	8			講義	
	9	前期中間試験			試験
	10	温熱療法	<ul style="list-style-type: none"> ・温熱療法の特徴が説明できる。 ・温熱療法の効果・禁忌が説明できる。 	講義	
	11			講義	
	12	寒冷療法	<ul style="list-style-type: none"> ・寒冷療法の特徴・効果・禁忌が説明できる。 	講義	
	13			講義	
	14	通電療法	<ul style="list-style-type: none"> ・通電療法の種類が説明できる。 ・通電療法の効果・禁忌が説明できる。 	講義	
	15			講義	
	16	超音波療法	<ul style="list-style-type: none"> ・超音波療法の特徴・効果・禁忌が説明できる。 	講義	
	17			講義	
	18	前期期末試験			試験

2025年度 柔道整復科

【分野】 専門分野 柔道整復実技

【科目】 固定法Ⅰ

【基本情報】					
配当年次	1学年	担当教員	大河原 崇雄	実務経験内容 (関連業務・所属・資格等)	
単位数	2単位		おおかわら たかお	接骨院勤務(12年)	
必修・選択	必修	時間数	72		
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	実技	36

【授業情報】	
授業概要	固定法Ⅰでは、固定法の基礎となる巻軸帯を用いた基本包帯法と冠名包帯法の技術及びそれらを応用した各種固定具を用いた固定の手法を修得する。技術を段階的に修得するためにパートを2つに分けて授業を進行していく。前期は、固定法の基礎となる巻軸帯を用いた基本包帯法と冠名包帯法の技術を修得する。後期は固定で使用する硬性材料の特徴と適応を知り、前期に修得した基本包帯の技術を活かし、巻軸帯と各種固定材料を用いて主要関節、体肢を適切に固定することができる技術を修得する。この科目は3年次の「柔整応用治療法Ⅰ」「柔整応用治療法Ⅱ」を履修するために必要な技術となっている。
実務経験の反映	臨床経験で培った、臨床ならではの包帯固定のポイントと注意点（包帯を巻く際の自身及び助手の巻きやすい位置、巻いている際の患者の状態の変化と声掛け、包帯の強さ）などを自身の経験を交えていく。
関連科目	2年次：「応用診察治療法」 3年次：「柔整応用治療法Ⅰ」「柔整応用治療法Ⅱ」 臨床実習：「臨床実習Ⅱ」「臨床実習Ⅲ」「臨床実習Ⅳ」の実習前評価（施術の補助）
授業の方法	当該授業で実施する包帯の特性と適用を説明し、モデルを用いたデモを行う。その後ペアで練習させながら、実技室内を巡回し個々の指導に当たる。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> 固定の目的と基本手法（肢位、範囲、期間）を理解する。 固定材料の種類と用途を理解する。 固定のメリットとデメリットを理解する。 巻軸帯の基本包帯法と冠名包帯法を理解し、体型にあった包帯を選択し患部に適切に巻くことができる。 硬性材料の特徴と適応が説明できる。 巻軸帯と固定具を用いて主要関節、体肢を校正材料で適切に固定することができる。

【担当教員から】	
教科書	「包帯固定学」
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度と実技技能の習熟度 ・基本的知識及び技能の修得 →前期・後期に行う期末試験で評価する。
成績評価方法	【評価方法】 ○前期成績：期末試験（100点満点）を実施し、その成績を前期最終成績とする。 ○後期成績：期末試験（100点満点）を実施し、その成績を後期最終成績とする。 ○年間成績：前期最終成績と後期最終成績の平均を年間成績とする。
	【評価詳細】 ○期末試験の評価割合：実技技能試験（100%）
担当教員から一言	柔道整復師が行う日常業務には、問診、視診、触診、整復、固定、後療法がありますが、特に整復と固定は柔道整復師にとって必要不可欠な技術となります。この授業では固定の基礎について理解し、現場で必要となる包帯及び固定材料の使用法をしっかりと身に付けてもらいます。巻き方一つで変わる包帯固定の効果、固定材料の当て方一つで変わる固定力。固定の奥の深さを実感して下さい。
自主学習	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	前期：火 9：00～16：40 後期：火 9：00～16：40 2F 柔整科職員室 ※授業開講時間を除く

【授業計画】				
学期	回数	授業内容	到達目標 (SBOs)	授業形態
前期	1	基本包帯法	・ 固定の役割が理解できる	実技
	2		・ 環行帯、螺旋帯が巻ける ・ 手関節、前腕部に包帯が巻ける	実技
	3			実技
	4		・ 蛇行帯、折転帯が巻ける ・ 下腿部に包帯が巻ける	実技
	5			実技
	6		・ 亀甲帯が巻ける ・ 肘関節、膝関節に包帯が巻ける	実技
	7			実技
	8		・ 足関節に包帯が巻ける	実技
	9			実技
	10			実技
	11		・ 麦穂帯が巻ける ・ 肩関節、股関節、大腿部に包帯が巻ける	実技
	12			実技
	13	冠名包帯法	・ デゾー包帯が巻ける ・ ヴェルボー包帯が巻ける ・ ジュール包帯が巻ける	実技
	14			実技
	15			実技
	16			実技
	17			実技
	18	前期期末試験		
後期	19	固定材料を用いた固定	・ 固定材を使用するための評価ができる	実技
	20		・ アルミ副子の特性を知りその使用法が理解できる ・ アルミ副子を用いて手指、足趾部の固定ができる	実技
	21			実技
	22			実技
	23		・ クラームルを作製することができる	実技
	24		・ 熱可塑性キャストの特性を知りその使用法が理解できる ・ 熱可塑性キャストを用いて前腕・手関節、膝関節の固定ができる	実技
	25			実技
	26			実技
	27			実技
	28		・ 厚紙副子の特性を知りその使用法が理解できる ・ 厚紙副子を用いて足関節及び足部の関節を固定することができる	実技
	29			実技
	30			実技
	31		・ クラームル及び厚紙副子を用いて身体の各部位を固定することができる	実技
	32			実技
	33			実技
	34			実技
	35			実技
	36			後期期末試験

2025年度 柔道整復科

【分野】 専門分野 柔道整復実技

【科目】 固定法Ⅱ

【基本情報】

配当年次	1学年	担当教員	本田 泰之	実務経験内容 (関連業務・所属・資格等)
単位数	1単位		ほんだ やすゆき	接骨院勤務(9年)・機能訓練施設勤務(5年) 学校法人 呉竹学園附属施術所(5年)
必修・選択	必修	時間数	36	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	実技 18

【授業情報】

授業概要	固定法Ⅱでは、テーピングを用いた固定の手法と固定により生じうる関節可動域の減少や筋力低下を正しく評価し、その後の施術へつなげるための評価(ROM測定・MMT検査)の手法を修得する。 学習をスムーズに行うために、固定法①、固定法②のパートを区切り授業を行う。 固定法Ⅱ①では伸縮性・非伸縮性のテーピングの特性を理解し、スポーツ現場から介護予防まで幅広い用途で使用できるテーピング固定を修得する。
実務経験の反映	接骨院での勤務及び中学、高校、大学でのラグビーチームのトレーナー活動を通じ、治療の場でのテーピング及びスポーツ現場でのテーピングを数多く経験をもとにより実践的なテーピング指導を行う。また患者や選手の指導に取り入れている運動療法の技術も合わせて伝えていく。
関連科目	1年次 : 「運動器の機能構造Ⅰ」「柔整外傷論基礎」の内容とリンクさせながら実施。 2年次 : 「応用診察治療法」「外傷予防法」の履修に必須の知識、技術。 3年次 : 「柔整応用治療法Ⅰ」「柔整応用治療法Ⅱ」の履修に必須の知識、技術。 臨床実習 : 「臨床実習Ⅱ」「臨床実習Ⅲ」「臨床実習Ⅳ」の実習前評価(診察の補助・施術の補助)
授業の方法	実技の前段階として座学の知識を先行して学習し、骨模型及びモデルを用いてデモンストレーションを行う。その後ペアで練習させながら、実技室内を巡回し個々の指導に当たる。
授業の一般目標 (GIO)	・各部位・疾患に対してのテーピング固定ができる。 ・障害や患部の状態に応じ、非伸縮性及び伸縮性テープを選択し貼付することができる。

【担当教員から】

教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度と実技技能の習熟度 ・基本的知識及び技能の修得 →前期・後期に行う期末試験で評価する。
成績評価方法	【評価方法】 ○前期成績：期末試験(100点満点)を実施し、その成績を前期最終成績とする。 ○後期成績：期末試験(100点満点)を実施し、その成績を後期最終成績とする。 ○年間成績：前期最終成績と後期最終成績の平均を年間成績とする。
	【評価詳細】 ○期末試験の評価割合：出席点と身だしなみ(20%)・実技技能試験(80%)
担当教員から一言	スポーツの現場、治療の現場、テレビなどで様々なタイプのテーピングを見たことがあると思います。白いものやカラフルなもの、細いものや太いもの。色々なテーピングがありますが何の為にテーピングをするのか、どのような使い分けをするのかをこの授業では学んでいきます。また開雲にテープを張っても意味がないので各部位のテープの貼り方も学んでいきます。意味のあるテーピングをしていきましょう。
自主学習	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	前期：火～土 9:00～17:45 後期：火～土 9:00～17:45 2F 柔整科職員室 ※授業開講時間を除く

【授業計画】						
学期	回数	授業内容	到達目標 (SB0s)	授業形態		
前期	1	非伸縮テーピング基礎と基本テープ	・非伸縮テーピングの特徴と目的が説明できる。	実技		
	2	基本テープ	・非伸縮性テープの切り方、貼り方を理解し実践できる。	実技		
	3			実技		
	4			・上肢の各関節の動きを制限できる。	実技	
	5			実技		
	6			非伸縮テーピングの実践		実技
	7			実技		
	8	・下肢の各関節の動きを制限できる。	実技			
	9	実技				
	10	伸縮テープの基礎	<ul style="list-style-type: none"> 伸縮テープの特徴と目的が説明できる。 伸縮性テープの貼り方を理解し実践できる。 	実技		
	11			実技		
	12	伸縮テーピングの実践	<ul style="list-style-type: none"> 身体の関節及び四肢に目的に応じた伸縮テーピングを貼ることができる。 	実技		
	13			実技		
	14			実技		
	15			実技		
	16			実技		
	17			実技		
	18			前期期末試験		

2025年度 柔道整復科

【分野】 専門分野 柔道整復実技

【科目】 固定法Ⅱ

【基本情報】

配当年次・単位数	1学年	1単位	担当教員	千田 由美子	実務経験内容 (関連業務・所属・資格等)
単位数	1単位			ちだ ゆみこ	接骨院勤務(5年) 学校法人 呉竹学園附属施術所(13年)
必修・選択	必修		時間数	36	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	実技	18

【授業情報】

授業概要	固定法Ⅱでは、テーピングを用いた固定の手法と固定により生じうる関節可動域の減少や筋力低下を正しく評価し、その後の施術へつなげるための評価の手法を修得する。 学習をスムーズに行うために、固定法①、固定法②のパートを区切り授業を行う。 固定法Ⅱ②では固定により生じうる関節可動域の減少や筋力低下を正しく評価し、その後の施術へつなげるための評価(形態測定・関節可動域測定・徒手筋力測定)の手法を修得する。
実務経験の反映	実技で学んだ知識、技能を実際の現場ではどのように活かしてゆくかを自身の経験から学生に伝えていく。
関連科目	1年次 : 「運動器の機能構造Ⅰ」「柔整外傷論基礎」の内容とリンクさせながら実施。 2年次 : 「応用診察治療法」「外傷予防法」の履修に必須の知識、技術。 3年次 : 「柔整応用治療法Ⅰ」「柔整応用治療法Ⅱ」の履修に必須の知識、技術。 臨床実習 : 「臨床実習Ⅱ」「臨床実習Ⅲ」「臨床実習Ⅳ」の実習前評価(診察の補助・施術の補助)
授業の方法	実技の前段階として座学の知識を先行して学習し、骨模型及びモデルを用いてデモンストレーションを行う。 その後ペアで練習させながら実技室内を巡回し個々の指導に当たる。毎回の授業の最初に、前回の内容を振り返る。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> ・形態測定の意義と手法を理解し実践できる。 ・関節可動域測定の意義と手法を理解し実践できる。 ・徒手筋力測定の意義と手法を理解し実践できる。

【担当教員から】

教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度と実技技能の習熟度 ・基本的知識及び技能の修得 →前期・後期に行う期末試験で評価する。
成績評価方法	【評価方法】 ○前期成績：固定法Ⅱ①の成績を前期最終成績とする。 ○後期成績：期末試験(100点満点)を実施し、その成績を後期最終成績とする。 ○年間成績：前期最終成績と後期最終成績の平均を年間成績とする。
	【評価詳細】 ○期末試験の評価割合：実技技能試験(100%)
担当教員から一言	固定をすることは損傷個所を安定させ治療環境を整えるのに最適であるが、その副作用として関節拘縮、筋力低下、筋委縮などは避けられません。しかし治療計画(前・中・最終)で適切な評価を行ってれば、後遺する機能障害の質や量を減らすことができます。この授業ではその評価する方法の中でも簡易に実施できる形態測定、関節可動域測定、徒手筋力測定を勉強しましょう。
自主学習	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	前期：月～金 9：00～17：45 後期：月～金 9：00～17：45 2F 柔整科職員室 ※授業開講時間を除く

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標 (SBOs)	授業形態
後期	1	診察の概論	・ 診察の流れを説明できる。	実技
	2	形態測定法	・ 形態測定を実践できる。	実技
	3			実技
	4	関節可動域測定の概論	・ 関節可動域測定の概要が説明できる。	実技
	5			実技
	6	関節可動域測定の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上肢の関節の関節可動域測定が実践できる。 ・ 下肢の関節の関節可動域測定が実践できる。 ・ 体幹の関節の関節可動域測定が実践できる。 	実技
	7			実技
	8			実技
	9			実技
	10			実技
	11	徒手筋力測定の概論	・ 徒手筋力測定の概要が説明できる。	実技
	12			実技
	13	徒手筋力測定の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上肢の徒手筋力測定が実践できる。 ・ 下肢の徒手筋力測定が実践できる。 ・ 体幹の徒手筋力測定が実践できる。 	実技
	14			実技
	15			実技
	16			実技
	17			実技
	18	後期期末試験		

2025年度 柔道整復科

【分野】 専門分野 柔道整復実技

【科目】 基本診察治療法

【基本情報】

配当年次	1学年	担当教員	安原 省吾	実務経験内容 (関連業務・所属・資格等)
単位数	2単位		やすはら しょうご	整形外科勤務(3年)、接骨院勤務(2年) 学校法人 呉竹学園附属施術所(12年)
必修・選択	必修	時間数	72	
開講学期	前期 後期	授業形態・回数	実技	36回

【授業情報】

授業概要	診察の手法を学ぶ科目である。前半は「運動器の機能構造Ⅰ」の内容とリンクさせながら、骨、関節、筋の構造を三次元的に理解するとともにそれらの触診法を学ぶ。後半は「柔整後療治療論」で修得した知識をもとに、実際の物療機器の使用法を学び、触診については骨のランドマークの理解と合わせて、筋の触診法を修得する。
実務経験の反映	臨床経験で培った、臨床ならではの診察のポイントと注意点（患者の緊張を和らげる、信頼関係を築くための話口調）などを自身の経験談を交え伝えていく。
関連科目	1年次：「運動器の機能構造Ⅰ」「柔整外傷論基礎」「柔整後療治療論」の内容とリンクさせながら実施。 2年次：「応用診察治療法」「外傷予防法」の履修に必須の知識、技術。 3年次：「柔整後療法」の履修に必須の知識、技術。 臨床実習：「臨床実習Ⅱ」「臨床実習Ⅲ」「臨床実習Ⅳ」の実習前評価（診察の補助）
授業の方法	実技の前段階として座学の知識を先行して学習し、骨模型及びモデルを用いてデモンストレーションを行う。その後、ペアで練習させながら、実技室内を巡回し個々の指導に当たる。
授業の一般目標 (GIO)	・骨、関節、筋の位置を把握し触診することができる。 ・各種物理療法の意義と使用法を理解し実践できる。 ・患者に対する診察のシミュレーションが実践できる。

【担当教員から】

教科書	特になし
参考書	「柔道整復学を学ぶための運動器基礎知識」「柔道整復学・理論編」
成績評価基準	○授業の理解度と実技技能の習熟度 ・基本的知識及び技能の修得 →前期・後期に行う期末試験で評価する。
成績評価方法	【評価方法】 ○前期成績：期末試験（100点満点）を実施し、その成績を前期最終成績とする。 ○後期成績：期末試験（100点満点）を実施し、その成績を後期最終成績とする。 ○年間成績：前期最終成績と後期最終成績の平均を年間成績とする。 【評価詳細】 ○期末試験の評価割合：実技技能試験（100%）
担当教員から一言	柔道整復師が施術を行うためには、患者の訴えに対し正確な判断（鑑別）をすることが絶対条件です。座学授業で知識を修得することはもちろんですが、そこで得られた知識が人体とリンクできて初めて初めて施術をすることが可能となります。柔道整復師の最大の武器となる触診の技術を頑張って身につけましょう。
自主学习	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	前期：火～土 9：00～17：45 後期：月～金 9：00～17：45 2F 柔整科職員室 ※授業開講時間を除く

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標 (SBOs)	授業形態	
前期	1	運動名	<ul style="list-style-type: none"> 全身の関節名と運動軸及び運動名を理解し自身及び他者の身体でその運動を行うことができる。 体幹の骨の触診ができる。 上肢の骨と関節の触診ができる。 下肢の骨と関節の触診ができる。 	実技	
	2			実技	
	3	骨・関節の触診法		実技	
	4			実技	
	5			実技	
	6			実技	
	7			実技	
	8			実技	
	9			実技	
	10			実技	
	11	筋の触診法		実技	
	12			実技	
	13			実技	
	14			実技	
	15			実技	
	16			実技	
	17			実技	
	18	前期期末試験			試験
後期	19	骨・関節の触診法	実技		
	20		実技		
	21		実技		
	22	物理療法	<ul style="list-style-type: none"> 寒冷療法の概要を理解し実施できる。 温熱療法の概要を理解し実施できる。 通電療法の概要を理解し実施できる。 	実技	
	23		実技		
	24	筋の触診法	<ul style="list-style-type: none"> 上肢の筋が触診できる。 	実技	
	25			実技	
	26			実技	
	27			実技	
	28			<ul style="list-style-type: none"> 下肢の筋が触診できる。 体幹の筋が触診できる。 	実技
	29				実技
	30		実技		
	31		実技		
	32		実技		
	33		実技		
	34		実技		
	35		実技		
	36	後期期末試験			試験

2025年度 柔道整復科

【分野】 専門分野 臨床実習

【科目】 臨床実習 I

【基本情報】

配当年次	1学年	担当教員 指導担当者	外部施術所実習：臨床実習指導者	
単位数	1単位			
必修・選択	必修	時間数	48	
開講学期	前期・夏季	授業形態・回数	実習	24回

【授業情報】

授業概要	<p>施術所の基本業務を理解し柔道整復師としての業務の一部を指導者の指導のもと実施する。 学外の施術所に赴き、それぞれの施設における業務を理解し柔道整復師としての業務の一部を実習先指導者の指導のもと実施する。</p>
授業の一般目標 (G10)	<ul style="list-style-type: none"> ・柔道整復師として患者の前に出るに相応しい立ち居振る舞いを身に付ける。 ・付属施術所及び各実習先での基本業務（施術を除く）を理解し実施することができる。 ・付属施術所指導者及び実習先指導者の指導のもと患者に対し物理療法を実施することができる。

【担当教員から】

教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価基準	<p>○実習に対する意欲と積極的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習の意義の理解と積極的な実習への取り組み <p>○実習を通じて養われる柔道整復師としてのプロフェッショナリズム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者に対する態度、立ち居振る舞い、相手の気持ちに立ち考えることができる心
成績評価方法	<p>【年間成績】：①評価項目に則る各実習毎の指導者からの評価 ②各実習毎のレポート提出 ③最終実習終了後のレポート提出 ①～③の内容を総合的に評価し年間成績とする。</p>
	【その他】

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標 (SBOs)	授業形態
前期	1	外部臨床実習 (接骨院)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習時間を厳守し実習に臨むことができる。 ・適切な身なり、態度で実習に臨むことができる。 ・積極性をもって実習に臨むことができる。 ・実習指導者の指示に従い、適切に業務を實踐できる。 ・事業所内でスタッフとコミュニケーションがとれる。 ・事業所の環境整備に常に留意できる。 (清掃、清潔保持、ベッドメイキング等) ・適切な態度で患者対応ができる。 (挨拶、言葉遣い、コミュニケーション等) ・適切に患者の誘導ができる。 (受付への誘導、ベッドへの誘導等) ・ベッドサイドで患者の補助ができる。 (患者への気遣い、気配り、介助等) 	実習
	2			実習
	3			実習
	4			実習
	5			実習
	6			実習
	7			実習
	8			実習
	9			実習
	10			実習
	11			実習
	12			実習
	13			実習
	14			実習
	15			実習
	16			実習
	17			実習
	18			実習
	19			実習
	20			実習
	21			実習
	22			実習
	23			実習
	24			実習